

2018年度

事業報告書
収支決算報告書

自 2018年4月 1日

至 2019年3月31日

一般社団法人おいでん・さんそん

2018年度事業報告

(2018年4月1日～2019年3月31日)

1 事業の概要

一般社団法人おいでん・さんそん（以下「一社OS」という。）は、都市と山村が抱える課題をひとつながりのものとして捉え、都市と山村それぞれが持つ強みを生かして支え合い、新しい魅力や価値を生み出し、人口減少、高齢社会の下でも、さまざまな暮らしが選択でき、持続可能で人々が幸せに暮らせる社会を実現するために設立された。一社OS創立後、実質的には2年目となった今期は、前期の総括を踏まえ、以下の重点取組み事項を定めて事業を推進した。

【重点取組み事項と成果】

①都市と山村の交流コーディネートを進め、関係人口の拡大を図る。

(株)ワイズ、足助高校、(株)山恵の第2弾猪肉和風カレーの発売や、man to man (株)のテレワーク事業スタートなど、過去のマッチング事業者の新展開が際立った。猪肉カレーの取組みは、「ディスカバー農山漁村の宝」にも選定された。マッチング件数は、過去最高の年間57件、生業創出支援も7件を数え、関係人口の拡大を図った。

②地域の持続化に向けた移住者の誘致を図るとともに、「むらおさめ」について研究する。

移住者受入れに向けた出前講座を6地区で実施したほか、24プログラムの「いなか暮らし博覧会」、イベント出展などにより、空き家情報バンクを通じた移住者は、29世帯70人を数えた。「むらおさめ」は、集落をたたむという概念ではなく、地域の持続化に向けたコミュニティの再編に伴う手続きと捉え、次年度に引き継ぐこととした。

③「つくラッセル」、「すげの里」との連携、活用を進める。

つくラッセルコンソーシアムの一員としてスタートアップに貢献したほか、インターン、視察受け入れなどを通じて連携を深めた。また、すげの里指定管理に向けた人材採用、市民農園開設などの手続きを行い、これらの拠点との連携、活用による一社OSのミッション実現の基盤を構築した。

④地域の持続化に有用な人材育成のための組織体制づくりを進める。

第9期の豊森なりわい塾から事務局を担うための人材採用を行った。また、新たな特色や効果として、地の利や一社OSのネットワークを生かし、講座のフィールドとなる地域の活性化に資することなどを念頭に、準備を着実に進めた。

⑤経営の安定化に向けた収益事業について調査、研究する。

豊田市からの業務受託に偏重した収益構造を是正するため、すげの里指定管理、豊森なりわい塾事務局など、事業の多角化を進めたほか、インターン、視察受け入れの有料化や講演会講師の引き受けなどに努めた。今後も引き続き調査、研究を進める。

⑥賛助会員、パートナー会員の拡大に努め、ネットワークの拡大を図る。

会員、賛助会員特典として「Oiden Thanks Book」の発行、進呈を行うなど、会員拡大に努めた。

⑦職員の資質向上に努めると共に、適正な事務の執行に努める。また、センターの果たすべき業務の範囲や関係機関、団体との連携について研究する。

全国過疎問題シンポジウム in 山口など県外研修はじめ職員の資質向上に努めたほか、

法に基づく手続き、会計事務等の習得に努めた。センターの有用性の認知拡大と共に広がる業務を、ネットワークの仲間との連携により対処していく方向が有効であり、システム化について引き続き研究していく。

【次年度に向けての課題】

①マッチング企業の拡大と関係人口づくり

- ・ man to man (株) のテレワークスタート、(株) ワイズの猪肉カレーの開発など、社員研修から企業 CSV への展開が地域課題解決に効果を上げており、他のマッチング企業に波及させるようアプローチが必要である。
- ・ 企業の新規マッチングが滞っており、つながる社会実証協議会参加企業への働きかけやマッチングツアーの企画などを通じて新規開拓に取り組み、関係人口の拡大を図る必要がある。

②定住先進地域のステップアップと全山村地域への波及

- ・ 定住対策の先進地域では、児童数の増加など人口構造に変化が現れ、センターが進める対策の方向性が検証されつつある。先進地域の一つである旭地区敷島自治区では、「しきしまときめきプラン 2020」の策定が計画されており、これに伴走しつつ、地域の持続化のための次のステップについて、検討が必要である。
- ・ 定住対策に取り組む地域は広がりを見せているものの、一部地域にとどまっており、全山村地域への波及に向けた対策が必要である。
- ・ 一方で、集落機能が低下し消滅を余儀なくされる集落について、家、農地、森林、寺社、村の歴史保存などの切り口から、集落再編のあり方について研究が必要である。

③中間支援組織の立ち位置を生かした豊森なりわい塾の運営

- ・ 2019年度より一社OSが事務局を担う豊森なりわい塾については、フィールドの熟知、人的ネットワークなど、地域の中間支援組織としての立ち位置を生かした取り組みやフィールドとなる地域の活性化につながる取り組みとすることが必要である。
- ・ また、豊森の新たなフェーズとして、社会的認知度の向上を図る必要がある。

④「すげの里」の適確な管理および拠点機能の最大化

- ・ 2019年度から始まる「すげの里」の指定管理については、民間としての特性を生かし、以下の視点を踏まえて拠点機能の最大化を図る必要がある。
- ・ 地域との連携により里山暮らしのモデルをつくる必要がある。
- ・ 整備時に求められたコーディネート機能、活動拠点機能の強化を図る必要がある。
- ・ 平日、オフシーズンに稼働率の低い宿泊機能のフル活用を図る必要がある。
- ・ 一社OSが設置者となった市民農園機能を生かし、中山間地域の「農の営み」を未来につなぐ拠点とする必要がある。

⑤「つくラッセル」、「すげの里」など地域拠点との連携、フル活用

- ・ おいでん・さんそんセンターを中心として、地域活動拠点となる「つくラッセル」、「すげの里」との連携により、効果的な施策推進を図る必要がある。
- ・ 情報発信拠点としてのセンターと民間施設である「つくラッセル」の自由で多機能な利用環境、リーズナブルな宿泊施設としての「すげの里」の一体利用による効果的な取り組みが期待される。

⑥センターの方向性を見出す一社OS専門部会の支援

- ・センターには、持続可能な地域社会を目指す先導的な役割が求められており、各分野専門部会の意欲的な活動を側面支援する必要がある。
- ・専門部会の取組みは、SDGs 未来都市を推進する、個別目標達成に向けた取組みでもあり、「すげの里」を拠点とする食と農部会の本格化、山村の移動をテーマとする「里モビ互助会」のスタート、森林部会の「森林学校」など新たな動きにも柔軟な対応が必要である。

⑦ネットワークの拡大のための一社OS賛助会員、パートナー会員の拡大および職員の能力、資質向上

- ・センター事業の推進は、ネットワークの広がりによるところが大きいことから、一社OSの賛助会員、パートナー会員の飛躍的な拡大が必要である。
- ・このため、「Oiden Thanks Book」の継続発行、新たな情報発信、ネットワーク拡大ツールとして、ローカルメディア事業について研究する必要がある。
- ・また、職員の能力、資質向上はもとより、職員が自己実現を図りつつ、仕事を通じて生きがいを持てる、新しく柔軟な働き方を、一社OSとして社会に示すよう努める必要がある。

2 理事会・総会の開催

2018年	4月17日(火)	第1回理事会
	5月22日(火)	第2回理事会、定時総会、第3回理事会
	6月25日(月)	第4回理事会
	7月23日(月)	第5回理事会
	9月19日(水)	第6回理事会
	10月16日(火)	第7回理事会
	11月8日(木)	第8回理事会
	12月21日(金)	第9回理事会→不成立、報告、協議のみ
2019年	1月24日(木)	第10回理事会
	2月27日(水)	第11回理事会→不成立、報告、協議のみ
		※理事、監事全員賛成による「決議の省略」手続きにより対処
	3月20日(水)	第12回理事会、臨時総会

3 おいでん・さんそんセンター運営業務

別紙「2018年度おいでん・さんそんセンター事業実績」のとおり

4 会員の状況

2019年3月31日現在の会員数は以下のとおり

正会員	25人・団体
賛助会員	11人・団体
パートナー会員	76人・団体

貸借対照表

2019年3月31日

(単位 円)

資産の部		負債及び正味財産の部	
科目	金額	科目	金額
現金・預金	10,389,461	負債の部	
未収金	9,466,769	短期借入金	3,000,000
その他流動資産	1,266,075	未払金	4,010,431
		前受金	411,950
流動資産 合計	21,122,305	その他流動負債	302,593
固定資産の部		負債合計	7,724,974
出資金	10,000	正味財産の部	13,407,331
固定資産 合計	10,000	正味財産 合計	13,407,331
資産合計	21,132,305	負債及び正味財産合計	21,132,305

【備考】

未収金は緑と水の森林ファンド（森林部会）350,000円、企画課委託金9,116,769円

前受金411,950円は里モビコムス事務手数料、税金、保険料

その他流動資産に里Coを含む。企画課より里Co50冊の返却があったため、里Coの棚卸資産が期首より増加

正味財産増減計算書

自 2018年4月1日

至 2019年3月31日

(単位 円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
①会費収入	329,000	329,500	-500
②寄付金	0	1,607,194	-1,607,194
③受託・補助金等収入	40,890,572	32,518,492	8,372,080
④雑収入	698	53	645
経常収益計	41,220,270	34,455,239	6,765,031
(2) 経常費用			
①事業費	22,964,631	20,385,433	15,480,844
②管理費	8,699,786	10,185,385	4,355,513
経常費用計	31,664,417	30,570,818	19,836,357
当期経常増減額	9,555,853	3,884,421	8,877,702
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
前期法人税、住民税及び事業税	21,136	11,807	9,329
当期税引前当期一般正味財産増減額	9,534,717	3,872,614	5,662,103
当期法人税、住民税及び事業税			0
一般正味財産期首残高	3,872,614	0	3,872,614
一般正味財産期末残高	13,407,331	3,872,614	9,534,717
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	13,407,331	3,872,614	9,534,717

【備考】

2018年度 収支計算書

(2018年4月1日～2019年3月31日)

(単位 円)

科 目	決算額	予算額	予算残高
I 事業活動収支の部			
1.事業活動収入			
①会費収入	329,000	405,000	▲ 76,000
正会員会費	185,000	175,000	10,000
パートナー会員会費	4,000	30,000	▲ 26,000
賛助会員会費	140,000	200,000	▲ 60,000
②寄付金	0	0	0
③事業収入	40,890,572	39,318,769	1,571,803
事業受託収入	36,458,769	36,458,769	0
自治体補助金	2,102,000	2,500,000	▲ 398,000
民間補助金	350,000	0	350,000
自主事業収入	1,979,803	360,000	1,619,803
④雑収入	698	0	698
事業活動収入計	41,220,270	39,723,769	1,496,501
2.事業活動支出			
①事業費支出	22,964,631	25,973,000	3,008,369
交流コーディネート事業	138,387	150,000	11,613
いなか暮らしコーディネート事業	2,025,268	2,400,000	374,732
山村の魅力・価値PR事業	2,483,947	3,180,000	696,053
ネットワーク拡大事業	2,662,520	3,250,000	587,480
その他自主事業	1,379,466	15,000	▲ 1,364,466
共通費（人件費等）	14,275,043	16,978,000	2,702,957
②管理費支出	8,699,786	10,077,000	1,377,214
人件費（管理部門）	6,102,549	7,268,000	1,165,451
その他経費	2,597,237	2,809,000	211,763
事業活動支出計	31,664,417	36,050,000	4,385,583
事業活動収支差額	9,555,853	3,673,769	▲ 5,882,084
II 投資活動			0
1.投資活動収入			0
①特定資産取崩収入	0	0	0
②固定資産返却収入	0	0	0
投資活動収入計	0	0	0
2.投資活動支出			0
①特定資産取得支出	0	0	0
②固定資産支出	0	0	0
投資活動支出計	0	0	0
投資活動収支差額	0	0	0
III 財務活動支出の部			0
1.財務活動収入			0
①借入金収入	19,000,000	20,000,000	1,000,000
財務活動収入計	19,000,000	20,000,000	1,000,000
2.財務活動支出			
①借入金返済支出	16,000,000	20,000,000	4,000,000
財務活動支出計	16,000,000	20,000,000	4,000,000
財務活動支出差額	3,000,000	0	▲ 3,000,000
IV 予備費支出	0	2,773,769	2,773,769
V 前年度法人税（均等割）	21,136	900,000	
当期収支差額	12,534,717	0	▲ 12,534,717
当 期 総 収 入	60,220,270	59,723,769	▲ 496,501
当 期 総 支 出	47,685,553	59,723,769	12,038,216
備考：			

財 産 目 録

2019年3月31日現在

資産の部 (単位 円)

		金額	
I 流動資産			
1.現金預金			
	手元現金	113,301	
	豊田信用金庫 足助支店	10,042,657	
	三菱UFJ銀行 豊田支店	233,503	
2.未収金			
	受託事業未収入金	9,116,769	
	受取民間助成金	350,000	
3.棚卸資産			
	里Co	1,117,000	
	豊田市デイズ	9,800	
	シシ肉カレー (キマ、和風)	31,958	
4.貯蔵品			
	切手、はがき、印紙	15,107	
	消耗品	990	
5.立替金			
	豊森実行委員会	26,300	
6.その他			
		64,920	
	流動資産計		21,122,305
II 固定資産			
	出資金 豊田信用金庫	10,000	
	固定資産計		10,000
資産の部合計			21,132,305

負債の部 (単位 円)

		金額	
I 流動負債			
1.短期借入金			
	豊田信用金庫	3,000,000	
2.未払金			
	農政課補助金返金分	415,000	
	セカンドスクール部会支援費	777,832	
	森林部会支援費	350,000	
	その他	2,467,599	
3.前受金			
	里モビコムス事務費	411,950	
3.預り金			
	源泉取得税他	302,593	
	流動負債計		7,724,974
負債の部合計			7,724,974
正味財産			13,407,331
正味財産の部合計			13,407,331
負債及び正味財産の部合計			21,132,305